



### 院長就任にあたって

「壊れない土の器として」

院長・学長 湊 晶子

昨年4月の学長就任式では伝統ある広島女学院大学の未来への発展を願って、「二十一世紀女子教育をリードする女子大学を目指して」(学院報第172号)と題してご挨拶をさせて頂きました。その八か月後に院長を兼務することになるとは考えて居りませんでした。

多難な時期にお引き受けすることには困難と責任をとまないと、お返事するのに時間を頂きました。戦火の中を生かさされ、「女性に閉ざされてきた数々の壁」を切り拓くために挑戦してきた八十二年の人生、「女子教育のこれからと平和」に少しでもお役に立つことができればと思ってお引き受けした次第です。孫は大学生と高校生と中学生です。ご父母は息子と娘と同年配です。祖母として母としてささやかな人生経験から発信できれば幸いです。

私の専門は新約聖書の時代史です。今回お引き受けするにあたって使徒パウロが国際都市コリントの教会に送った言葉から励ましをいただき決断致しました。コリントの信徒への手紙二第四章七、一四節と二章一四節の言葉です。パウロの結論は土の器の中にキリストという宝を入れるならば、「四方八方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず、虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされない」とのメッセージです。

本学は1886年に砂本貞吉牧師によって創立され、ナニ・ゲインズ初代校長にバトンタッチされて以来、キリスト教を土台として今日まで歴史を刻んで来ました。女学院と言う大きな土の器には、歴史的にキリスト教の精神が入れられています。今私達は謙虚に女学院という器の中身を点検すべきであると思っています。女学院と言う器にはかつてないほど今沢山のひびが入っていることに心を痛めています。しかしパウロは「ひびだらけだからこそ存在しなければならぬ」と述べているのです。二章の十四節で、「神はわたしたちをいつもキリストの勝利の行進に連ならせ、私達を通して至るところにキリストを知るといふ知識の香りを漂わせてくださいます」とあるように。

版図を広げていったローマ帝国は分捕り品を持ち帰り、皇帝の前に凱旋行進をしました。最大の分捕り品は金銀と奴隷でした。パウロは分捕り品の金銀が「土の器」の中に取められて、うやうやしく皇帝の面前に運ばれた情景をとらえて、「この宝を土の器に入れる」と表現しました。その後ろには3000〜4000という奴隷の行列が続きました。匂いを消すために香を炊いたのです。その情景を捕えて「私たちを通じて至るところにキリストを知るといふ知識の香りを漂わせてくださいます。」(コリント第二2:14)と表現しました。土の器がひび割れしなす、その間から香が放たれます。私たちの器はいまにも壊れそうにひびだらけであるかも知れませんが、今こそ存在価値が世に問われる時です。是は是、非は非として厳しく対応しつつも、ひびの間から「創立の理念」を放たせて頂きたいと願います。

2016年には広島女学院は創立130年を迎えます。「女学院と言う器の中味」を全学院挙げて再確認する時となりますように。



広島女学院

院長就任式

日時 二〇一四年十二月六日(土) 午前十時  
場所 グレインズセンター

大学

「私」はズバリ...

—2014年度秋季宗教強調週間 10月20日(月)〜24日(金)—

今季宗教強調週間は、沖繩キリスト教研究所主催の平和研修参加学生たちによる報告で幕を開けた。「平和」への強い願いと鋭い感性を持った学生たちが沖縄の現実をどのように見てきたか、興味深い発表であった。

今季の特別講師としてお招きした山本有紀先生(松山東雲女子大学・短期大学宗教主事)はNYのユニオン神学校で研鑽を積んだ「礼拝学」の専門家。温かくはんなりとした京ことばを通して、聴き手の学生一人ひとりの人格・知性に向ける信頼と敬意が伝わってきて、すつ

かり魅了された。絵本の奥にひろがる豊かなイメージ世界を、聖書の御言葉と出会わせつつ語るスタイルの講話は、多くの学生にとって新鮮な驚きであった。とくにレオ・レオニの「ベツェツェティノ」から、一人ひとりとはどれほど不完全に思えても、神様がつくりだしたもうた唯二無二の「完成品」であること、時としてそのことは自分がバラバラに碎かれる経験を通して見出されること、そのような「ユニークで、不完全な」完成品だからこそ他者と共同・共働してよりよいものを生み出しうることを学び、改めて主題として選ばれた

Iコリント12・14〜27(多くの部分二つのからだ)が心にしみた。講演後の質疑応答で、優れた講演に触発され、見事な質問が相次いだことは大きな驚きであった。21日(火)夕刻には「専門を生かして礼拝についてのワークショップを導いていただいた。カラー粘土や香油を用いた礼拝体験は参加者同様に深い感動をもたらした。

23日の木曜日チャペルは留學生「Goda Ariga」さんの講話。大らかで明るい人柄、美しい民族衣装、グローバルマインドあふれるお話しに、満場の出席者が聴き入った(この講話はチャペル日より第183号で読むことができます)。(チャプレン 澤村 雅史)

第65回あやめ祭 縁〜once in a lifetime chance〜

今年のおあやめ祭は大型台風19号の影響をまともに受けてしまいました。1日目(10/12(日))は何とか夕方まで天気持ちこたえてくれたため、野外ステージ・模擬店・展示・フラダンスのコンサート等、予定どおり実施できましたが、翌日は早朝から暴風警報が発令され、大雨や強風の中では屋外にいる学生やお客様の安全が保障できないこ

と、JR在来線も午後運休という状況では帰りの手段も確保できないこと等から、外部公開を中止するという事態になりました。1年かけて準備してきた実行委員の学生たち、クラブ等の参加学生たちには、さぞ残念で不本意な決定だっただろうと思います。ですが、外部公開中止決定後の実行委員たちの対応は大変見事なものでした。瞬時

に気持ちを切り替え、講堂を会場に変更し、スケジュールの組み直しと調整を行い、学内にいた本学生・他大学生・保護者・教職員を観客に、十分楽しめる舞台を演出してくれたのです。「逆境が人を成長させる」ということを間近でみせてもらった、いつにも増して記憶に残るあやめ祭だったと思います。来年こそ在学生・保護者・卒業生・地域の皆様・教職員のご来場を心よりお待ちしております。(教学課長 入江 直子)

管理栄養学科から地域へ 「食物アレルギーっ子のデイキャンプ」の開催

管理栄養学科では、毎年夏に食物アレルギー児とその家族を対象とした「食物アレルギーっ子のデイキャンプ」を開催しています。食物アレルギーがあると、特定の食品が食べられませんが、ここでは、そのような日頃は食事制限を行っている子ども達も、みんな一緒に食事ができるよう昼食とおやつを提供しています。レシビは管理栄養学科の学生が考え、卵、牛乳、乳製品、小麦など食物アレルギーの原因となりやすい食品を除去したものであり、さらに除去により不足した栄養素も補っています。また、食

育劇やおやつ教室を通して、子ども達に食べることの大切さ、そして楽しさを教えています。このデイキャンプは卒業研究の一環として行っていますが、これまで大学で学んだ栄養学や臨床栄養学、栄養教育論など様々な知識を集約し、疾病を持つ人に対する栄養管理を実践して



います。学生たちはこの経験を生かし、食事で悩まれている方の気持ちが理解できる管理栄養士・栄養士になりたいという意識が芽生えています。また、卒業生は保育園や学校など食物アレルギー児と直接関わる現場で広く活躍しています。デイキャンプの詳細は、大学のHPにも載せていますので、是非ご覧下さい。(管理栄養学科准教授 妻木 陽子)

人の温かさに支えられる 「小学校教育実践研究会」

本研究会は、平成二十年五月二十四日土曜日十三時に、リーダー専徳院由美(広島県立広島皆実高等学校出身)・広島市立江波小学校教諭)・サブリーダー野田奈那(同・広島市立みどり坂小学校教諭)のもと、一二期生十二名(卒業後、全員が小学校教諭)により産声をあげた。会の立ち上げに際し、当時の幼児教育心理学主任であった桐木建始教授や松浦正博教授をはじめ、学科の先生方、そして元上司の信楽和宏先生(元広島県

立教育センター所長・広島大学教授)に温か度で多大な支援をして頂いたことに対し、今でも深い感謝の念を覚える。一年目は、私の知人である先生方に講師をお願いし、小学校教諭として必要な基礎・基本を教授して頂いた。

二年目からは、算数科が専門の曾川昇造先生(元呉市立昭和南小学校校長)を、元上司であった島本智子先生(東広島市立西条小学校校長)に紹介して頂き、当初毎週土曜日の午後、学習

指導案作成・模擬授業を中心に活動を行ってきた。曾川先生の心のこもった情熱溢れる指導が、会の活動を活性化させ、学生の夢を叶える原動力になっている。一昨年度からは、国語科が専門の神野正喜准教授(元広島大学附属小学校副校長)にも細やかな指導をして頂き、今年で創立七周年目を迎えた。この間、小学校教諭は四十九名を数え、合格率は八十%となった。

今後も学生への支援に力を注ぐと共に、卒業生との絆も大切にしていきたい。(幼児教育心理学准教授 戸田 浩暢)

理事長を  
仰せつかって

理事長 藤本 黎時



理事の一人として広島女学院の運営のお手伝いをさせていただいていますが、この度は、岡ら黒瀬真二郎先生の後任として理事長をお引き受けすることにいたしました。

少子化時代を迎えて学校経営の大変厳しい時代に、本学院はさらに苦難を強いられる問題で厳しい試練の時を迎えています。私たちは、今こそこの苦難を乗り越えて、先人が築かれた130年の本学院の立派な歴史を引き継いでいかなければなりません。これは行く先が見えませんが、神様が祈りに応えて下さることを信じて、全身全霊を傾けて努力することが私たちに残された唯一の道だと考えます。「信仰とは、望んでいない事を確信し、まだ見えていない事実を確認することである。」(ヘブル人への手紙11:1)

本学院が置かれているこのような厳しい状況の中で、神様が進むべき道をお示し下さることを信じて、本学院を地の塩として、世の光として輝かすために、非力ながら微力を尽くして重責を果たす覚悟です。

本学院に関係するすべての方々に今後ともいっそうのご支援とご協力をお願いいたします。

第14回広島女学院  
クリスマス・ツリー点火音楽礼拝報告

待降節(アドヴェント)が始まった週の11月25日(火)の夕べ、第14回広島女学院クリスマス・ツリー点火音楽礼拝が、砂本記念講堂で開催された。雨天のため、屋内での開催となった。

学生、幼稚園児、教職員、保護者、一般者の約250名の参加者であった。

前田美和子宗教主任の司会により、讃美歌103番「まきびとひつじを」、合唱、聖書朗読(ルカによる福音書2章1節〜20節)、お祈り、讃美歌108番「いざうたえ」合唱を行った。

続いて、チャプレン 澤村雅史先生によるクリスマスメッセージが贈られた。クリスマスが何の日であるか、神の子イエス・キリストが誕生した時、飼葉桶に布にくるまれた姿で寝かされたことの意味は何であるかを問われた。私たちの生きる社会は、強く、速く、大きく、立派であることが尊とばれるが、弱く、小さいこと、片隅に追いやられ、手がかることにこそ喜びや幸せがあること、そこに人間としての願いがあることを、クリスマス・ツリーの小さな明かりを見るときに思い出してほしいと述べられた。



最後に、讃美歌109番「きよしこのよる」を皆で合唱し、祝祷によつて

く、大きく、立派であることが尊とばれるが、弱く、小さいこと、片隅に追いやられ、手がかることにこそ喜びや幸せがあること、そこに人間としての願いがあることを、クリスマス・ツリーの小さな明かりを見るときに思い出してほしいと述べられた。

アンサンブル・エスポワール「アメージンググレイス」「荒野の果てに」、聖歌隊・アンサンブルエスポワールの「まきびとひつじを」、聖歌隊「Zion, my City」の演奏、合唱の後、ゲーンズ幼稚園の子どもたちが「かみさまのおやくそく」「アドヴェントクランツ」  
「We wish a merry Christmas」を合唱した。

点火式では、講堂ロビーからもみみの木を眺めながら、皆で10、9、8、7…とカウントダウンし、チャプレン、学生、園児が点火スイッチを一齐に押し、ツリーが点火され、ゲーンズスチャペルのカリヨン「さやかに星はきらめき」が流れた。

終了した。  
ツリーは12月25日(木)まで、毎日17時から20時30分に灯される。  
(宗教センター 中嶋知子)



第32回公開セミナー  
「食生活と健康の関わりを考える」

二〇一四年度公開セミナーが十月四日から計四回実施された。現代は栄養に関する医療が進歩している。一方で食育、健康寿命、生活習慣病の改善など疾病予防のための「健康づくり活動」が活発に行われ始めている。今までの医療という物事の見方から、ヒトが自分らしく生きるためにどうしたら良いか、子供たちの健全な心と身体の発育を支援するにはどうしたら良いか、高齢者が住み慣れた地域の中で最後まで自分らしく生きていくにはどうしたら

良いかなど幅広く考えるようになってきた。  
今回のセミナーでは、それぞれの専門家が食生活と健康の関わりをどのように考えていくべきか説明頂いた。

参加者は、広報してすぐに定員八十名を超え、百名以上となった。食生活と健康を考える方々が多いことを実感すると同時に管理栄養士という専門家への期待を感した。修了証書授与者数は六三名であった。  
(管理栄養学科 学科主任 石長孝二郎)

世界を楽しく体験して学ぶ  
女学院大学フィールドワーク

国際教養学部と人間生活学部では夏休みなどを利用して、海外でのフィールドワークを実施しています。

本年度、国際教養学部では、英国、フランス、タイ、カンボジアに行きました。人間生活学部では管理栄養学科がハワイでのフィールドワークを行いました。

写真は芸術・文化を学ぶにフランスに行った国際の

学生が写した写真です。パリの青空と明るい陽射しをご覧ください。  
(国際教養学科 教授 宮本 陽子)

若さと健康、時間に恵まれ、好奇心旺盛な時期に、日本とは文化の異なる国に行き、その空気に触れることは貴重な経験です。本学のフィールドワークはそうした成長のチャンスとなることを期待して企画されています。



中学・高校

中高合同文化祭

中学

今年の文化祭のテーマは「FANTASY」です。すべての生徒がこの文化祭をFANTASYなものにするよう、一団となって準備してきました。

この文化祭で多くの中3が部活動を引退となりますが、日頃の活動の成果を發揮できるように、どの部もギリギリまで練習・作品の制作に励んでいました。

また生徒の応募作品から校内投票で選ぶイメージキャラクターは、FANTASYなウサギさんに決まり、多くのお客様からも可愛いと好評でした。

部活動に所属していない生徒たちは、五人委員と一緒にイメージキャラクターのパネルを作り、前日にボスター・花飾りと一緒に東西校地間の生垣に飾り付けました。来校者の方には、校内に入る前からFANTASYな雰囲気味わってもらうことができたのではないのでしょうか。

そして私たち五人委員会は今年、五人委員企画としてウォークラリーを行います。

した。嬉しいことに、予想をはるかに超える多くの方々に参加していただき、途中でウォークラリーの台紙がなくなってしまうほどの盛況ぶりでした。また今年受験生の小学生には、五人委員会手作りの「合格しおり」を配り、とても喜んでもらうことができました。

今年のテーマ「FANTASY」に沿ってそれぞれの団体が自由に出し物を作るという形で開催しました。HR発表では、A組は緑日と迷路を組み合わせたもの、B組はパフォーマンズ、C組は緑日、D組は喫茶、E組はお化け屋敷を担当し、高校一年生と二年生が協力し合い個性あふれるものになっていきました。常にお客様の出入りがあり、賑わっていました。

化祭全体において大きく変更することはありませんが、少しずつ改善すべき場所を見直し女学院生にもお客様にも楽しんでもらえるような文化祭を作り上げることができました。足りない点も多々あったと思いますが、来年度の文化祭もより文化の香り漂う素敵なものになるよう努力していきたいと思えます。

最後にになりましたが、保護者の皆様や地域の方々、先生方、そして文化祭成功のために頑張ってくれた生徒の皆さん、今年も心に残る文化祭をつくりあげることができたと思えます。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

表も普段の活動の成果を見て頂くことができたのではないのでしょうか。どの団体も努力や涙の結晶が輝いていました。そして、たくさんのお話が集まった絵本のように素敵なものにしたいと考え決めたテーマ「FANTASY」を実現できたと思えます。

教職員や事務職員の皆様、並びに保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。皆様の支えがあったからこそ仕上がった文化祭です。温かく私たちを見守って下さりありがとうございました。今年の文化祭で得たものは、きっとこれから先の将来でも役立つことだと思います。

高校

礼拝を共にし、ファンファーレで幕開けした今年の文化祭も無事に終えることができました。心配されていた雨も降ることなく、パンフレットがなくなってしまう程のお客様に恵まれ、たくさん楽しんで頂けたと思います。

（中学五人委員 永山 果蓮）

更に今年はパンフレットに大幅な変更を加え、作り直しました。試行錯誤し出来上がったパンフレットは、とても見やすいものになっています。実際にお客様から見やすくなったとの声もいただき、嬉しく思いました。また、生徒会企画も趣向を凝らしたものをを行ったおかげか、多くの方に来て頂き、忙しくも充実した一日になりました。

私たちは、昨年度から文化祭全体において大きく変更することはありませんが、少しずつ改善すべき場所を見直し女学院生にもお客様にも楽しんでもらえるような文化祭を作り上げることができました。足りない点も多々あったと思いますが、来年度の文化祭もより文化の香り漂う素敵なものになるよう努力していきたいと思えます。



演田 萌香

高2沖縄修学旅行

10月7日から10日までの4日間、沖縄へ修学旅行に行きました。前半は「平和学習」、後半は「沖縄を楽しむ」という行程でした。

前半で特に印象に残ったのは糸数壕です。糸数壕では懐中電灯を片手にヘルメットをかぶり、鍾乳洞の中に入って現地の方からお話を聞きました。壕の中は真っ暗で肌寒く、当時の様子を実際に体感できました。バスでの移動中、連日戦闘機が飛び交っており物凄い騒音が絶えず鳴り響いていました。

後半は沖縄特有の自然や文化に触れ、沖縄を満喫することができました。今回の修学旅行は、ただ楽しいだけでなく、沖縄戦のことや沖縄の現状を知ることができた実りある経験となりました。

演田 祐実

中3長崎研修旅行

私たち中学3年生は、長崎へ研修旅行に行ってきました。

1日目はクラスごとでの行動で、長崎原爆資料館、岡まさきはる記念館、二十六聖人記念館へ見学に行き、その後、語り部さんの被爆体験を聞きました。平和学習が中心だった1日目は、戦争の悲惨さを改めて感じることができました。

3日目はハウステンボスでの班別行動で、さまざまなアトラクションを楽しんだり、お土産を買ったりと、とても楽しめた1日でした。

（中3研修旅行委員 目次 葵）

2日目は長崎市内での班別研修で、平和遺構と文化に関する施設を見学しました。この日は多くの長崎の歴史や文化に触れることができました。



### キリスト教 強調週間

11月17日～22日の1週間  
 中高では「キリスト教強調週間」として、学年ごとに奉仕活動を行ない、「昼のつどい」で様々な活動を行っている人のお話を伺い、キリスト教への理解を深めました。特に21日(火)と22日(水)には、歌手の沢知恵さんをお招きして、歌とお話を伺いました。

「選んだ一のために十九のさびしいうめき声をきく」。私はこれが怖くて、今まで何度も選択をしぶつてきたのかと、今までの自分を客観視することができませんでした。そして同時に、それではだめだと頭では理解していても、やはり選ぶことが怖い、勇者にはなれないと思いました。そこで私に勇気を与えてくれたの

が、「選ぶことは愛することだ」という歌詞でした。私が選ぶことにおびえて自分の道を明確に思い描けなかったのは、自分で選んだ道をきちんと愛していないまま捨てたはずの道の方を何度も何度も振り返り、「今ならあの道へ引き戻せるかもしれない」というギリギリのラインに常に立って自分を守ってきたからだと思います。選ぶということ

は、捨てたものの重みを背負いながらも、それ以上の愛で一を愛すること、そうすることで前進できる。誰かが道を決めてくれたら良いと思っていた私に喝を入れ、道標となってくれた歌でした。…

(宗教教育委員)

矢野 一郎



### 女学院 クリスマス

中高では、中学讃美歌コンクール(12月18日)、中学、高校それぞれのクリスマス・終業礼拝(20日)、女学院クリスマス礼拝(20日夜)を、クリスマス行事として行いました。

讃美歌コンクールでは、期末テスト期間中も練習に励んだ各クラスのすばらしいハーモニーが披露されました。どの学年の歌声も美しいものでしたが、特に3年生の歌う「さやかに星はきらめき」と各クラスの自由曲は、審査をする先生方を悩ますほどの歌声ばかりでした。

20日(土)のクリスマス礼拝は、中学が讃美歌コンクールの各学年の讃美歌を中心に構成し、高校が放送部による絵本朗読とハレルヤ合唱を中心に構成しました。夜の女学院クリスマスと合わせて3回の説教を引き受けて下さったのは、日本キリスト教団広島教会の武田真治牧師です。現代に生きる私たちにとって、クリスマスがどのような意味があるのかを、力強く語ってくださいました。

3年一巡りで毎年内容が異なる高校クリスマス礼拝ですが、今年は「映像と朗読」の年でした。今年は「クリスマスに咲いたひまわり」(ウテ・クレマー)を、



矢野 一郎

日本語(放送部)とポルトガル語(高2の倉光静都香さん)で朗読してくれました。画像の編集・映写を担当したのは、高2宗教委員の三保舞祢さんと中岡里緒さんでした。

(宗教教育委員)

### SGH活動報告 乾燥地研究を深める 鳥取ツアーについて

地球上の陸地の4割は乾燥地で、その地域の多くは貧困や食料問題を抱えています。グローバル教育の一環として、乾燥地域の実際を学び、諸問題の解決に向けた研究について知るために、鳥取大学および鳥取の企業に生徒を派遣しました。参加生徒は自然科学や環境問題に興味がある6名(中3～高2)です。

鳥取大学乾燥地研究セン

ターでは、大学院生に展示物の説明や研究内容をお話いただきました。鳥取大学地域学部では、自然エネルギー利用の研究がご専門の田川公太郎先生に最新の研究内容をご紹介いただきました。環境化学がご専門の中野恵文先生はセネガルでの研究内容に加え、貧困の実際を語ってくださいました。

鳥取再資源化研究所は、使用済みガラスを原料に乾燥地の耕作地拡大に利用できる製品を製造し、JICAとともにアフリカ諸国で実用化試験をしています。

る企業です。工場見学の後、代表取締役の竹内義章氏に製品にかける思いや夢を語っていただきました。海外で活躍される研究者の思いを直接聞くことができ、生徒達も積極的に質問し、充実した交流会となりました。参加生徒からは、ツアーでの学びをプレゼン発表し、他の生徒に伝えます。なお、ツアーの詳細を中高のHP「SGH今週の実践」に写真付きで掲載しています。是非、ご覧ください。

(グローバル教育推進部)  
吉井 昌博

### 生徒の活躍

- ◇ 中学新体操部  
中国中学校新体操選手権大会
- 団体 4位
- ◇ 中学合唱部  
第53回中国合唱コンクール 銀賞
- ◇ 高校音楽部  
第53回中国合唱コンクール 金賞
- ◇ GEC(グローバル教育推進部)  
\* 全日本高校生模擬国連大会  
予選突破  
村上 友梨(21B)  
森下 綾乃(11E) 組  
森脇 瑞希(21A)  
小田 仁美(21E) 組  
↑以上2チーム決勝進出  
\* 日本国際連合協会 国際理解・国際協力のための高校生主張コンクール  
倉光 静都香(21B)  
全国代表に選出



幼稚園

感謝祭礼拝

うれしいあきの みのりです  
うらのおやまの おみかんも  
かきもりんごも かごいっぱい  
みんなそろって ありがとう

(幼児さんびか)

今年も各家庭から野菜や果物を持ち寄り、このさんびかを歌い、秋の豊かな恵みを喜び、感謝する礼拝を守りました。その後、この恵みを分かち合うために、私たちを支えてくださっている方々にお届けに行きました。喜んでいただくことで、自分たちの喜びに繋がることに気づいた子どもたちでした。

(幼稚園 木村 和美)



感謝の祈りをささげます



「庶務課のみなさま、いつもありがとうございます」

ファミリーデー

12月は広島フィールドミュージアムの菊間 馨さんをお迎えして、親子で一緒に初冬の森を散策いたしました。ぼうけんの森は豊かな自然の恵みで溢れており、森のガイドに耳を傾けたり、それぞれ発見を楽しみながら過ごしました。また木のつるを探って丸く形づくり、クリスマスリース作りにも挑戦しました。さまざまな色とりどりの木の実を見つけてはみんなで分かち合い、飾りつけ、嬉しいクリスマスを迎える素敵なお知らせがたくさん出来上がりました。初冬の冷たい空気も寒さもまだ心地よく感じる中での体験は、心も体も温まる日となりました。

(幼稚園 久保木 裕子)



クリスマスリース作りは楽しいね

喜びを分かち合える  
クリスマス

アドベントクラウンツの灯りが一本ずつ増えていく礼拝を通し、「サンタさんが来る日」と思っていたクリスマスの本当の意味を知り、みんなで心を一つにクリスマスを待つ嬉しさや喜びを感じていった子どもたち。その喜びを、友だちと嬉しそうに讃美歌を口ずさんだり、大好きな家族とも分かち合うために一生懸命贈り物を作ったり、たくさんの人に伝えようとベージュの準備をしたりと、様々な形で表現し、温かなアドベントを過ごしました。これまで家族や周りの人たちから守られ、愛をたくさん与えられてきた子どもたちだからこそ、クリスマスを迎える喜びを今度は自分が周りの人に与えようと思えるのだということを感じ、その全てをいつも見守ってくださる神様の深い愛に改めて感謝するクリスマスとなりました。

(幼稚園 有里 亜友美)



「プレゼント、よろこんでくれるかな」



「うれしいお知らせをあなたがたに一番に伝えます。」

事務局

2014年度全学院研修会報告

2014年度の広島女学院全学院研修会の企画委員会は、古重歌織教諭(幼稚園)、抹香加緒理教諭(中高)、尾首涼子氏(中高事務)、妻木陽子准教授(大学)、藤原雅也氏(法人事務)、久保恵未氏(大学事務)、田頭紀和准教授(大学)の7名で発足されました。

企画委員会では、当初のテーマ設定時に様々な案が提案されましたが、今年度にてご退職なさる黒瀬理事長の思いにもう一度立ち戻り、「きずな」を作るためのプログラムを模索する方向で、話し合いが進められました。そして、各校部で行われる輝きのある教育に着眼し、これらの教育を広島女学院の資産と位置づけ、点として存在している私たちの「教育の資産」を線で結ぶことで「きずな」を築きたいと考えました。

そこで、本年度の主題を『共に歩む教育の場を目指してー広島女学院の「教育資産」の共有と「きずな」の構築ー』とし、まず、最初に私たちの教育の原点に立ち返るために、本年度より大学学長にご就任頂きま

を小林文香准教授(生活デザイン・建築学科)から「管理栄養学科海外フィールドワークの試み」を市川知美准教授(管理栄養学科)から、「幼児教育心理学科の「教育資産」と「きずな」を三樹正典学科主任(幼児教育心理学科)からご紹介頂きました。また、中高の報告として「SGHについて」を安宅弘展教諭から、幼稚園の報告として「自然を生かした教育の推進」を高田憲治園長から、そして、大学事務の取り組みとして「ボランティア活動」を馬場一葉氏より報告頂きました。これらの各校部で行われる目標をもった教育の報告を通して、それぞれが広島女学院の培った「教育の資産」だと感じることができました。お忙しい時間を割いて報告のご準備を頂きました。この場をお借りして深く反省申し上げます。

研修会では、特別講演「いま、なぜキリスト教女子教育か」で、湊学長から女性教育の歩みとともに、私たち広島女学院大学の歩み、そして、湊学長の願いについてお聞きすることができました。湊学長の情熱を学院全教職員が感じることのできた貴重な時間であったと確信致します。また事例報告では、大学からの報告として、「海外フィールドワークの展開」を田頭(国際教養学科)から、「卒業設計展に向けた設計教育」

を小田原文香准教授(生活デザイン・建築学科)から「管理栄養学科海外フィールドワークの試み」を市川知美准教授(管理栄養学科)から、「幼児教育心理学科の「教育資産」と「きずな」を三樹正典学科主任(幼児教育心理学科)からご紹介頂きました。また、中高の報告として「SGHについて」を安宅弘展教諭から、幼稚園の報告として「自然を生かした教育の推進」を高田憲治園長から、そして、大学事務の取り組みとして「ボランティア活動」を馬場一葉氏より報告頂きました。これらの各校部で行われる目標をもった教育の報告を通して、それぞれが広島女学院の培った「教育の資産」だと感じることができました。お忙しい時間を割いて報告のご準備を頂きました。この場をお借りして深く反省申し上げます。

第30回広島女学院「The Messiah」

第30回広島女学院クリスマスコンサート Messiah は、星野晴夫校長先生の指揮により12月23日(火)ゲインスホールにて開催されました。多くの方々のご指導、ご協力、ご参加により大変感動的な音楽をお捧げすることが出来ました。ご来場いただいた皆様、メサイア・コンサートを支えてくださった皆様に、何よりの感謝を申し上げます。

また、年末のご多忙の中、練習に足を運んでくださっただけでなくご指導してくださった参加者の皆様、そしてメサイア・コンサートの運営、開催のために陰ながらご尽力くださった方々のお力があってこそ、当日があったと考えると、誰か一人ではない、皆で作っているもの大きさを感じずにはいられません。このコンサートに携わることができたことは隊員たちも一生忘れることがないでしょう。聖歌隊として喜ばしいことに学外で歌う機会をいただくことも増えておりますが、慢心することなく、すべての機会において最高の音楽を神様にお捧げ出来るよう日々練習に励んでまいります。

最後にになりましたが、第31回メサイア・コンサート

2014年度秋季講演会報告

Table with 2 columns: Department (e.g., 文学部, 管理栄養学科) and Lecture Details (Topic, Speaker, Date, Location).

だけでなく、その先もまた、素晴らしいメサイア・コンサートの時を皆様と過ごすことができたなら、と聖歌隊一同心より願っております。(聖歌隊クワイヤ隊長 国際教養学部国際教養学科 3年 金原 詩織)



会議報告

2014年度第1回臨時理事会

2014年4月30日14時開会。1992年5月に設立された広島女学院維持会の運営上発生した問題に関する調査・対策委員会の設置について審議、承認された。

第129回理事會

2014年9月26日14時開会。審議に先立ち、広島女学院維持会運営上発生した問題について、当該調査・対策委員会委員長より報告。この後、維持会事務担当者であった理事長補佐の解任を決議した。中高の補助金申請事業にかかる第二次補正予算案、広島女学院一貫教育奨励制度規程「砂本貞吉奨学金規程」制定等について審議、承認された。

2014年度第3回臨時理事会

2014年11月3日14時開会。黒瀬理事長・院長より、維持会問題で責任を取り、2014年11月30日付で退任する旨申し出があり、了承された。

2014年度第1回臨時評議員會

2014年11月28日10時開会。黒瀬院長の11月30日付退任に伴い12月1日から2015年3月31日までの間の院長として湊学長の就任について諮問、同意が得られ理事會に推薦することとした。

10月定期評議員會

2014年10月18日10時開会。2015年4月からの次期院長について選考委員會において湊品子学長を選出したと報告。評議員全員の同意で理事會に推薦することとした。

今年度事業計画の進捗状況、129回理事會承認事項の第二次補正予算案、経理規程変更について諮問、同意された。

2014年度第2回臨時理事會

2014年10月29日10時開会。10月27日、維持会の解散に向けて維持会臨時役員會が開催された旨報告。この問題に関して監督官庁への報告等のための概要書

人事

理事会選任

理事 黎時

理事長 黎時

院長 湊 晶子

院長 黒瀬 晶子

就任

野々村尚子

法人事務局総務課事務職員 (常勤嘱託)

西河内靖泰

大学国際教養学部特任准教授

Ashley Hollenbeck

大学国際教養学部助教

森保 尚美

大学人間生活学部准教授

前川 裕治

Courtesy Lawrence

黒瀬真一郎

退職

前川 裕治

Courtesy Lawrence

黒瀬真一郎

退職

前川 裕治

Courtesy Lawrence

黒瀬真一郎

退職

前川 裕治

Courtesy Lawrence

黒瀬真一郎

退職

前川 裕治

Courtesy Lawrence

黒瀬真一郎

退職

前川 裕治

Courtesy Lawrence

黒瀬真一郎

和田 高子様 (元職員)

馬瀬 良雄様 (元大学教授)

工藤 浩様

友田 民義様 (元監事)

平野 マスミ様 (大学名誉教授)

白波 瀬悦子様

佐藤 木綿子 大学事務局秘書課課長ご母堂

佐藤 茂樹 国際教養学部教授ご義母

土肥 葉子 (大学入試課主任)

住田と改姓

智博君 (前瑛子中高教諭ご子息)

優君 (岡岡健太郎中高教諭ご子息)

松浦 ユイノ様

松浦 正博 人間生活学部部长 (松浦正博人間生活学部部长授ご母堂)

和田 高子様 (元職員)

馬瀬 良雄様 (元大学教授)

工藤 浩様

友田 民義様 (元監事)

平野 マスミ様 (大学名誉教授)

白波 瀬悦子様

佐藤 木綿子 大学事務局秘書課課長ご母堂

佐藤 茂樹 国際教養学部教授ご義母

土肥 葉子 (大学入試課主任)

住田と改姓

智博君 (前瑛子中高教諭ご子息)

優君 (岡岡健太郎中高教諭ご子息)

松浦 ユイノ様

松浦 正博 人間生活学部部长 (松浦正博人間生活学部部长授ご母堂)

和田 高子様 (元職員)

馬瀬 良雄様 (元大学教授)

工藤 浩様

友田 民義様 (元監事)

平野 マスミ様 (大学名誉教授)

白波 瀬悦子様

佐藤 木綿子 大学事務局秘書課課長ご母堂

佐藤 茂樹 国際教養学部教授ご義母

土肥 葉子 (大学入試課主任)

住田と改姓

智博君 (前瑛子中高教諭ご子息)

優君 (岡岡健太郎中高教諭ご子息)

松浦 ユイノ様

松浦 正博 人間生活学部部长 (松浦正博人間生活学部部长授ご母堂)

SGH教育のために

十倉 堯子様 10,000円

中高教育充実のために 川上 久美様 20,000円

野村 久子様 5,000円

アイリスセンター維持費として 広島女学院同窓会様 600,000円

宮原 洋治様 100,000円

一般 今石 牧子様 10,000円

現物寄附 野村 知未様

デイブプリーザー 里田 隆博様

水銀気圧計 福田 道宏様

PLUSTEKフィルム スキヤナ

9・16(火) 次期院長候補

10・1(水) 選考委員会

10・4(土) 全学院研修会

10・8(水) 大学秋季卒業礼拝

10・9(木) 事務協議会

10・12(日) 13(月祝) あやめ祭

10・16(木) 学院運営協議会

10・18(土) 定期評議員会

10・29(木) 臨時理事会

11・2(日) 中高文化祭

11・3(月祝) 臨時理事会

11・10(月) 公認会計士監査

11・11(火) 常任理事会

11・13(木) 事務協議会

11・18(火) 公認会計士監査

11・20(木) 予算委員会

11・28(金) 臨時評議員会・理事会

12・3(水) 公認会計士監査

12・4(木) 公認会計士監査

12・11(木) 事務協議会

12・16(火) 大学クリスマス

12・18(木) 音楽礼拝

12・19(金) 学院運営協議会

12・20(土) 常任理事会

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

編集後記

新年明けましておめでとうございます。今年は雪の降り積もる年明けとなりました。年末から大雪の日もあり、春が待ち遠しいです。「冬来りなば春遠からじ」今年一年が、広島女学院と学院に連なる多くの皆様にとつて実り多い一年でありますように。(中高 抹香加緒理)

10・29(木) 臨時理事会

11・2(日) 中高文化祭

11・3(月祝) 臨時理事会

11・10(月) 公認会計士監査

11・11(火) 常任理事会

11・13(木) 事務協議会

11・18(火) 公認会計士監査

11・20(木) 予算委員会

11・28(金) 臨時評議員会・理事会

12・3(水) 公認会計士監査

12・4(木) 公認会計士監査

12・11(木) 事務協議会

12・16(火) 大学クリスマス

12・18(木) 音楽礼拝

12・19(金) 学院運営協議会

12・20(土) 常任理事会

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア

12・23(火祝) 第30回クリスマスコンサート・メサイア



広島女学院同窓会会報

新年を迎えて

同窓会副会長 塩 冶 みはる



同窓生の皆さま、同窓会にご協力ご支援ありがとうございます。今年もどうぞよろしく願います。

同窓生として伝統ある私たちの広島女学院の発展と平安を祈り、出来る限りのお支えをしなければならぬと新たに決意しました。昨年プロック会、支部会に大矢みどり会長と共に出席させていただき、多くの同窓生と交わりの時を持つことができました。また素晴らしい先達の人たちにお目にかかりお話を聞くことができます。感謝しています。

「われらは神と共に 働くものなり」 さて、今年是被爆70年を迎えます。同窓会ではこれを記念して平和記念事業を

計画しました。

「被爆60年証言集『平和を祈る人たちへ』増補改訂版」の発行です。60年記念証言集に新しい証言と高校で1973年に発行の「夏雲」より数編を加えました。日本語版と英語版を7月ごろ発行予定です。被爆体験を後世に語り伝えることが私たちの大切な役目です。

催し物として「平和を祈る集い」(仮)を企画しました。同窓生のパイプオルガン演奏、被爆者の証言、クワイヤアイリスのコーラスをゲインズホールで8月1日(土)開催予定です。お憶えいただき共に平和をお祈りしましょう。

さて、定着してきましたホームカミングデー(4月25日(土))開催の準備も当番幹事のご努力により着々と進んでいます。どうぞ期待ください。多くの同窓生のお帰りをお待ちしております。

また、同窓会へのご希望、ご意見などございましたらお寄せください。今年も同窓会のために良き働きが出来ますよう努力し母校のますますの発展をお祈りします。

広島土砂災害 義捐金協力へのお礼

同窓会会長 大矢みどり

昨年8月20日、広島市は未曾有の土砂災害に見舞われ、同窓会本部には、同窓生の安否を気遣うお電話を何本もいただきました。

本部幹事会では、全国の同窓生に義捐金協力をお願いし、被災された同窓生の方へお見舞い金をさしあげることと決定しました。10月同窓会報発送時にお願ひ文を同封しましたところ予想以上のご賛同を得、全国各地から約290万円の義捐金が寄せられました。

本部では9月に現地を回り被災された同窓生の方々に連絡をとり、状況を確認しました。その中で被害が大きいと判断した18名の方へ、11月末日にお見舞い金をお渡ししてまいりました。

ご協力くださった方々の同窓生を思う暖かいお気持ち、被災された方にも私共にも伝わってまいりました。皆さまのお気持ちに、厚くお礼を申しあげます。

最後に被災された同窓生の皆さま、また地域の皆さまのもとに、一日も早く平穏な日々が戻ってまいりますよう、心からお祈り申しあげます。

支部会・地区会だより

中部プロック

10月1日 参加者13名 名古屋 Marriott アソシアルホテル18階 華雲

長野、桑名、知多、春日井、岡崎、各務原、可児、名古屋、愛知郡、尾張旭、岐阜から数年振り、或いは初参加の方も3名いらっしゃいました。

自己紹介を兼ねて近況報告をしました。地域も年代も様々な集まりでしたが、同窓生ということで、すぐに本音トークで盛り上がりました。

「年に一度の同窓会以外にも、一泊とか、おしゃべり会とかもいいわね」という意見もあり、楽しい時を共有できました。

また、来年も元気でおいひ致しましょうね。(柳井妙子 文日9回)



広島地区会

10月3日 参加者80名 アンデルセン 今回お招きしましたゲストは広響のバイオリニストの盛

田恵様でした。盛田様は橋本元校長先生のお嬢様でいらっしやいます。素敵なバイオリンの調べと共に秋をゆつくりと満喫する事ができました。美味しいお食事とお友達との楽しいお喋りで素敵な時間を過ごせ、幸せでした。(吉光光江 高25回)



呉地区会

10月23日 参加者34名 錦水館

2年に一度の呉地区の集い、今回は宮島「厳島神社」をおとすれました。秋晴れに恵まれたこの日、厳島神社の説明を伺いながら、本殿で特別参拝という貴重な体験をさせていただきました。

参拝後、「錦水館」にて宮島名物「あなご重」をいただきながら会長より母校の近況報告、学長の「女性を生きる」という本の紹介をしていただきながら懇談。

その後、宮島を自由散策、女学生気分にもどって楽しい一日でした。(小島敬子 高28短27回)

福岡支部

10月24日 参加者27名 旧福岡県公会堂貴賓館1階 ジャックモノー

讚美歌が始まり、物故者への黙祷。大矢会長より母校の現状と大学再興の為に献身的にお働き下さっている湊学長のお話を伺った後、同窓生大本絵理様によるヴァイオリン演奏を楽しみました。仏料理を頂きながら、初参加者も得て、各テーブルで話はずみ、博多にわかも披露されました。最後は校歌で終り、和やかな会となりました。(瀬良紀子 大英11回)



# お元気ですか



元中高体育科  
麻川喜代枝 先生

定年退職して何年も経ちました。在職中のことも思い出さずことが少なくなくなってきた今日この頃です。私は在職中、定年退職した後はボールルームダンスと車いすダンスをしようと考え、車いすダンスはボランティア活動としてしたいという気持ちがありました。だから在職中に車いすダンスについての情報を集め、退職後すぐに車いすダンスを始めました。初めは肩が痛くなるし足は痛くなるし車いすにはひかれらるしでダンスどころではありませんでした。回数を重ねるにつれスムーズにいくようになりだんだん面白くなりました。初めの頃のデモンストレーションでは、度々大失敗し、もう辞めた



この時の感動は今も鮮明に  
よみがえってきます。この感動を通して私は車いすダンスを続けていく気持ち

と、手をゆっくり動かしてとか言  
てとか言  
いな  
車いすを  
引つ張り  
ました。  
終わつた  
時に彼女  
はお姫様  
になつた  
ようだと言  
顔をしてみ  
くなくなつ  
伸びていた  
この時の感  
よみがえり  
この感動を  
ダンスを続  
を強くしま  
新体操に燃  
ダンスに燃  
の人生は死  
えるのだな  
の頃です。

いと思いま  
少なくやり  
中で投げ出  
せん。その  
持ちでボラ  
した自分を  
た。そうこ  
脳性麻痺の  
やつてしま  
椅子に座れ  
た。車いす  
動かしなが  
とか、手を

35年前の夏、主人が急逝した。平和記念式典で広島市長が読み上げる平和宣言の準備中であつた。当時42才の私は大学卒業後20年目の錆びついた英語で、主人の残した電話帳に手にヒロシマを世界に伝えるための新しい人生を歩み出した。当時の世界は冷戦の最中であり、核兵器開発競争に伴つて被曝者の数が増大していた。核配備を恐れるヨーロッパのメディアは核の非人間性について広島からドキュメンタリーによる警告を発信した。アメリカや太平洋で核実験によつて被曝した人々が資料館の展示の中に自分達の運命を重ね合わせて恐怖し、広島に協力を求めた。

広島には毎年約30万人の外国人が訪れる。平和公園には国籍や人種を超えたあらゆる年代の外国人が集う。彼らの多くは被曝者の話に耳を傾け、原爆ドームを見上げて核廃絶への決意を新たに、平和への熱い想いを映像や活字あるいは絵画や音楽などに託して広く世界に伝えてきた。

## 同窓生は今

小倉桂子 (高8、大英8回)



プロフィール  
1959年 広島女学院大学英文学部卒業。  
1980年頃より広島を訪れる外国人の通訳や取材のサポート、英語による格闘技鑑賞を始める。  
1984年 英語で平和公園ガイドを行う「平和のためのヒロシマ通訳者グループ」を設立し、和英対訳「ヒロシマ事典」、「平和公園ガイド」などを出版。  
1990年 株式会社アテンション(通訳・翻訳・出版)設立。  
2005年 広島市民賞受賞。  
2013年 第25回宮本清平賞受賞

**2015 ホームカミングデーのお知らせ**  
テーマ：世界を視野に「Be Independent」  
日時：2015年4月25日(土) 10:30~13:30  
日場所：リーガロイヤルホテル広島  
会場 費：8,000円  
**2015年ホームカミングデー実行委員**  
当番学年  
高校15 短大14 大英15 高校25 短大24  
文英7 文日7 高校37 短大36 文英19 文日19  
お問合せ：同窓会事務局 TEL・FAX 082-221-1059  
同封のチラシをご参照ください

広島は世界の人達と共に語りあい、共に考えながら行動するための場所となつていった。  
30年前に20人で始めたボランティア通訳ガイド達は、今百人を超える。  
普通の市民が通りがかりの外国人に広島の説明が出来るまち。市民の多くが平和について自分の意見が言えるまち。そんな広島になることを夢見ている。  
3年前から英語で被爆体験を伝える広島市の「被爆体験証言者」となり、犠牲者たちの代弁者として、年間千人を超える外国人達にヒロシマの心と願いを伝え続けている。

**同窓会バザーのお礼**  
11月2日、中高文化祭日に開催いたしました。多くのお客様で、テンション販売も同窓会館のカフェ・アイ



**震災、その後の報告**  
これまで私たちが大切にしてきた物は何だったのだろう。東日本大震災で大量に産まれた瓦礫の山を見て、私は呆然としました。ポコポコになった車の山、横倒しになったコンクリートの建物、土だらけのプラスチックのおもちゃ。思い出の物たちが「瓦礫」として山積みになれ、処分されることに心が痛みました。そして、この瓦礫の山をどうするつもりなのか？と問われている気がしてなりません。  
環境省によると、震災瓦礫は約2千万トン(東京ドーム45個分)、その処理を終えるのに3年の年月が費やされました。私にとって不要になつた物といえば、自分の手から離れてしまえば知らないうちに消えてなくなるものでした。ところがあの瓦礫の山は、人が作り出したものは人の手によってしか自然に還すことができないのだ、と感じさせられるものがありました。考えてみると、日々使っているもので自分一人の力で自然に還すことのできるゴミは、ほんの少しです。それほど、人工的なものに囲まれて暮らしているのです。  
震災からもうすぐ4年が経とうとしています。復興への道のりはまだまだ長く、一方で震災の風化も進んでいます。あの大地震は、命の尊さや原発の危うさ、助け合うことの喜び等、多くのメッセージを私たちに残しました。私にとってあの瓦礫の山は、人工的な物にあふれた中で暮らす私に、自然と共に生きることについて考えなさいと言っているように思えてなりません。  
(宮城支部 小栗さゆり 科学環3回)

リスも賑わいました。献品とお手伝いのご支援をいただき、感謝申し上げます。収益は本部活動費に充てたいと思います。(バザー委員長 中村慶子)

**お詫びと訂正**  
第173号「召天」に掲載しました「中島秀子さん(田中)高17」は誤りでした。お詫びして訂正いたします。

人が作り出したものは人の手によってしか自然に還すことができないのだ、と感じさせられるものがありました。考えてみると、日々使っているもので自分一人の力で自然に還すことのできるゴミは、ほんの少しです。それほど、人工的なものに囲まれて暮らしているのです。  
震災からもうすぐ4年が経とうとしています。復興への道のりはまだまだ長く、一方で震災の風化も進んでいます。あの大地震は、命の尊さや原発の危うさ、助け合うことの喜び等、多くのメッセージを私たちに残しました。私にとってあの瓦礫の山は、人工的な物にあふれた中で暮らす私に、自然と共に生きることについて考えなさいと言っているように思えてなりません。  
(宮城支部 小栗さゆり 科学環3回)